

## 【技術士試験のコツ】

技術士は技術分野における国家最高資格です。

技術コンサルタントができる人材に与えられるため、当然、技術知識に加えて、創意工夫や文章力を要求されます。

かかわったプロジェクトの大小にかかわらず、創意工夫が求められますが、創意工夫ってなんでしょうか？

これは、問題が抽出できること、その問題を、既存あるいは探し当てた情報を基に、論理だてて解決することだと思えます。

論理だてて解決できれば、問題が小さくても関係ありません。

むしろ、大きなプロジェクトになると、ルーチン化、マニュアル化してしまい、創意工夫を発揮できなくなります。

例えば、予算は5地点分の分析費用しかないのに、10地点分の水質分析が必要になったとき、あなたはどうしますか？

一つは、他の予算を削って10地点分析に充てることですが、それでは技術士とはいえません。

答えの一つは、現地で、測定器だけでよい、電気伝導度を採水分析と一緒に図ることです。一般に溶解している物質が多いほど、電気伝導度は高くなると言われていますので、採水分析した地点について、分析項目の値と電気伝導度の相関を算出します。

算出にあたっては、散布図を作成し、一次関数の相関式を算出します。

この辺りはエクセルを用いれば容易です。

これを用いて、残りの地点の分析項目値を予測するのです。

長々となりましたが、これが創意工夫です。

次に文章作成テクニックを3つ示します。

- ① 箇条書きを多用すること
- ② 章や節などの文章構成を整えること。特に同じ次元、例えば1-1、1-2のような場合、同じ次元の項目であること。1-1分析方法 1-2現地測定方法 はOK。しかし、1-1分析方法 1-2窒素の濃度 はNGです。窒素云々は分析方法の更に下のレベルです。このような構成は建設関係の論文に準拠した方がいいです。1、1-1、1-1-1、(1)、1)のように繰り下がる方法です。
- ③ である、ます調は統一すること。特に技術士論文はである調で書くべきです。

とりあえず、以上のことを把握するだけでも合格にかなり近くなります。詳細は、本技術情報のコーナーか、ブログまたは掲示板コーナーなど、本アイデアマーケットで紹介していきます。

以上